

管内経済は、全体として回復の動きが鈍化

管内経済情勢報告



その2 財務部

平成十三年六月、財務部では管内経済情勢を次のとおり取りまとめました。

概況

最近の管内経済情勢をみると、公事業は前年を上回っているほか、住宅建設も大幅に上回っている。しかし、個人消費は伸びが鈍化しており、また、十三年度の設備投資も前年度を下回る計画となっている。

観光は引き続き高水準を維持している。この中、企業活動をみると、十三年度上期の企業収益は、増益見込みとなっているものの、生産は総じて低調な動きとなっている。

なお、雇用情勢は依然として厳しい状況にあるものの、一部に明るい動きもみられる。

このように、管内経済は、全体として回復の動きが鈍化している。個人消費をみると、コンビニエンスストアの売上げは、堅調に推移しているものの、百貨店が前年を下回っていることや、主要スーパーが伸び悩んでいるなど、不透明感がみられる。耐久消費財では、家電製品、新車及び中古車販売は伸びが鈍化している。このように、個人消費は、伸びが鈍化している。

観光についてみると、観光入込み客が一時前年を下回ったものの、この

にきて三ヶ月ぶりに増加に転じ、単月ベースで過去最高を記録するなど、引き続き高水準で推移している。主要ホテルの客室稼働率は前年を上回っており、客室単価は前年を下回っている。

観光関連施設の入場者数は、高水準である人込み客や、グスク群の世界遺産登録の効果に支えられ、引き続き前年を上回っている。

住宅建設を新設住宅着工戸数でみると、持家が前年を下回っているものの、貸家及び分譲住宅が前年を大幅に上回っていることから全体では前年を大幅に上回っている。

資金別の着工戸数では、公的資金が前年を上回っているほか、民間資金が前年を大幅に上回っている。

設備投資をみると、十三年度は全産業で前年度を下回っている。

資金別にみると、前年を上回っている。

Jのようだ、生産活動は一部業種において好調な動きもみられるものの、総じて低調な動きとなっている。

企業収益(石油、電気・ガスを除く)をみると、十三年度上期は、前年同期に比べ、製造業で減益見込みとされているものの、非製造業でホテルを中心としたサービス業などで増益見込みとみていることから、全産業では増益見込みとなっている。

十三年度下期及び通期は、全産業で増益見込みとなっている。

企業の景況感をみると、現状(十

三年四~六月期)では、製造業で「下降」超幅が拡大しているものの、非製造業でわずかに「上昇」超に転じることから、全産業では「下降」超幅が縮小している。

なお、先行は、わずかながら「下降」超で推移する見通しとなっている。

企業倒産は、件数は前年を下回

ているものの、負債金額は前年を上回っている。

雇用情勢をみると、完全失業率は、依然として高水準で推移している。また、有効求人倍率は低水準で推移しているものの、県外からの受求人数は臨時・季節等を中心に大幅な増加を続けている。

就職件数もコールセンター等の情報サービス業を中心に増加を続けて

いる。Jのようだ、雇用情勢は依然として厳しい状況にあるものの、一部に明るい動きもみられる。

消費者物価は、被服・家事用品などで下落傾向にあることから、全体では弱含みとなっている。

金融面をみると、企業の資金需要は、設備資金、運転資金とも盛り上がりを欠いていることから、全体としては前年を下回っている。

